

日本漢方協会通信

31年 3月

日本漢方協会設立50周年について

日本漢方協会は日本漢方協議会として昭和45年(1970年)に発足しました。

同年年5月10日に、追平春樹会長のもと、日本東洋医学会(伊藤清夫理事長)の後援で、新宿の東京医科大学病院の同窓会館講堂で「漢方特別講座」が開講しました。それから計算すると来年の新年号の2年には50年になります。

10周年の記念行事としては、日本漢方協会学術大会を青山の青年会館でおこないました。その学術大会も今年で49回目になります。

20年の記念行事の一つとして「実用漢方処方集」を発行しています。今回50年の行事として、

①祝賀会

来年の第50回学術大会終了後に記念祝賀会を行うことを決定しています。規模・会費・会場は未定です。

②50年誌の発行を予定しています。

③実用漢方処方集の第4改定を計画。新210処方(平成20年)に約80処方が新たに付け加わった。効能効果の改定も行われ、証の表現が「しぼり」として明記された。一方薬局製剤は薬局製剤指針に因っているが、漢方は新210処方に準拠している。今回の実用漢方処方集の改定では、第一選択処方として、薬局製剤にしている。また薬局製剤にないが、新210処方に記載されている処方にも、第一選択処方としている。薬局製剤の承認番号と薬味数「以上〇味」と記載することとなった。下段の部分には新210処方では「湯」「散」が認められているかとか、「白朮・蒼朮どちらも可」や、「なくても可」、「加えても可」などの記載をした。ここに安中散料・安中散を例に挙げて示す。

(薬)般を先頭にもつくる

安中散 (和剤局方)

桂枝 4.0 延胡索 杜蛻各 3.0 茴香 1.5 縮砂
甘草各 1.0 良姜 0.5

⑧ 延胡索 良姜 乾姜 小茴香 桂枝各 5
杜蛻 8 甘草 10 以上の割合で混合粉末として一日量 5.0 を三回に分服

⑨ 桂枝 4 高良姜 2 小茴香 2 延胡索 3
縮砂 2 炙甘草 1 杜蛻 3 (先煎) 水煎服、
あるいは粉末にして服用

⑩ 〔散料〕 ケイヒ 3.0 ホレイ 3.0 シュクシ
ヤ 2.0 エングサク 3.0 ウイキョウ 2.0 カンゾ
ウ 2.0 リョウキョウ 1.0 水煎服、

⑪ 〔散〕 前量生薬を末とし一包 2g 一日 3
包服用

和剤局方(巻三) 甘草壹拾兩 炒
玄胡索去皮 良姜炒 乾姜炮 茴
香炒 肉桂各伍兩 杜蛻肆兩 椒
⑫ 加減方
⑬ 動悸 加茯苓 5 (安中散加茯苓)
⑭ 目標 虚証の胃痛、呑酸、ある
いは腹痛腹痛
⑮ 症 注 和剤局方では縮砂なく乾姜
を用いていた。通常、末を熱湯に
て調下す。婦人は淡醋湯にて調服
酒を飲まない人は塩湯を用いて下
す。

(薬)の効能効果

K-1 薬局製剤承認番号
K-1 ① 漢方製剤番号

この処方集の下段に、使い方のコツなどをのせているのですが、追加したいものがある方はその情報の出所も添えて、事務局にお送りください。編集の都合で次回の機会になるかもしれませんがよりよい処方集にして行きたいのでご協力をお願いいたします。

三上正利記